安政見聞錄

上

129
6
3

Keiogijuku Library
寄贈者
福澤時太郎氏
昭和三年十月十日
慶應義塾圖書館

天災の免れ難きを知り光孝天皇御代に九年の洪水ありしの時に十年の大旱ありて人畜飢渇の天災を聖明の御代御代に遁れ難き事なれば今万民大喜び御代御代に遁れ難き事なれば今万民大喜び歩を進め飢渇に陥し往古より稀の天災ありて歩を飛ばせ海に陥し多くの人畜を失ひ其の代の人畜の死骸の茶毘に付せしみ多くの人民を遂に年代月日を東海道相模迎まで地震津波の災厄人民悉く死亡せられども大江戸迄くの為に諸人枝葉安逸に暮す事の難き事を余慶

天災の免るゝ所なきを歎き給ふ光孝天皇御代に九年の洪水ありて陽の
時に七年の大旱ありて人民飢渇の天災を聖明の御代
少々過れ難死して動もすれば万民大困窮
御代に成り恩沢潤し徳化行はれ穀の天災あり生産
豊に成り飢渇なく海内人民国土豊にして世の中
代の人歌に光孝の茶結ぶみ水ひ長たる長を遊
年貢内に東海道相模迄地震津波の災厄
人民死亡せしかども大江戸迄は真震
恵あり諸人枝楽安逸に暮の盛り守りて暮す余慶

の事ども聞過し長崎しゝ今年安政二年十月
二日夜亥時大地震あり大江戸近國四方廿里ばかり
此災ありこの時の中に大江戸の中を流れ
太鼓ばかりの板長地動の發るや地震大地の青の如き
響かなりて忽地上激浪のごとく震動き地裂天陽くらく
潰れ倒るゝ百万の人家倉庫神社佛寺傾覆し是ぶつ
打殺されしもの幾万人数知れず或は梁に挟まれ
或は壁に打れ又屋根の下に敷れ
土蔵の壁に埋れなどしたる男女老幼往きけび

駆まどれよ。死しあるいは傷ましたるもの数知れず。その凄きよ。火
まさに四方より発して出。酷天我ならずしたるものども。人を畏れあるを
なるを見たるなれば心神混乱す。醉たる如くあるを防ぎ消さん
とせども念なし。火は四方を迫ぜるがごとくにして十余所
なるに見え。行きの方。風ぬきまるにも市中残る方
なく焼けぬんと必せるごとく。我真夜半ひとり雷鳴
も静まりて火勢弱く。火さえ来たれば及ばざれば火消人足
あるも甚だ苦しかりしが。時ちくなるにつれ消し
ありぬ。是ちまぐれ災の中に幸ひめぐり地震風雨

産土の神ゝ守り給へるなるべしと法人いひあへり。扨
夜明方に成て後、堂を近のかりさ仮殿より。甚喜ぶ事かぎりなく
ゆゑ虚實とりまぜて。繰返し語るを聞みな泣うるをば。予
四方の知己を訪らへ法つぐ。其の處に行さまざまの物語の
是を聞く。聞よ者ども是を記し。後生の児孫よ。此災死を
知べし。枕を高く安らかに眠れ者
御代のかゞ者なり。此度はんとて。一ツの冊子つゞり
あらはす。同じ大江戸のうちなり。其災死よ軽重なるこ
などゝ。ちみりゝ知り給へ人

凡例

一 今度の地震より火災起り武家寺社町家ともに内及近国諸国
まで響ける所多し依之異変百件実録して後代の慎りに成せんと思人
多し見聞まゝ録ハ高貴門閥の人の死亡し給ふ事ハ
記せず録すべし

一 (一)か此死したるハ焼死人を初め人ハ早く方位定る慣
を国俗婦の人甚見んとする所ハ洪水迅雷
寺社の破損数ケ所ハ人ハ異変の者ハ
外人と異人者甚数量りがたく世の四民挙る

一 高貴の人ハ入市町ゝ絶ず人の見聞更ハ
家民数多の仁徳の最よて
分ハ甚人の後世の要人死を
一 此書中ハ所ゝ潰家破損等の法事ハ甚所の破損の大小
我分ハ所ゝ潰ハ焼失の知べし

標目

寺　日蓮南方家檀之寺西町〜
　　商佐馬町三丁目地方義〜
武三　同　御城坐之男女堂〜
　　地蔵〜堂之堂
四　同　人形町〜
　　大川端地蔵堂
五　同　永代橋南方深川一番
六　同　仲丁　弘〜
七　同　形倉米蔵より寺町〜
八　伊賀様丁南方閉鎖大徳之寺
　　新大橋東方中西教会〜
　　南北表下丁より高橋〜
　　同　東方猫江地蔵家町
　　東西天神川堀より江戸一覽〜
　　回向院鐵鬼〜堂　同　御
九　小名木川御　西〜武家町家
十　本所橋南方丁地　所〜
十一　同　相生丁渡　所
十二　東方花丁地　渡
十三　本所不動武家町
十三　同　西中之郷
十四　同　蔵井町地
十五　同　現割下町地
十六　西　又角地渡
十七　亀戸天神門前より法恩寺まで
十八　小梅より出村丁地　所〜
十九　千住小塚原渡場　所

中之巻

二十　表原　郭中表役場まで
　　浅山陣屋　張流〜

[illegible]
[illegible]
[illegible]

四九　仁右衛門　仁右衛門
四十　彦兵衛　彦兵衛
四十一　日比谷伊右衛門　日比谷伊右衛門
四十二　[illegible]
四十三　[illegible]
四十四　[illegible]
四十五　[illegible]
四十六　[illegible]

右通計四十六章　西曆弐千八拾六歟　[illegible]
其他多少詳あり三卷[illegible]

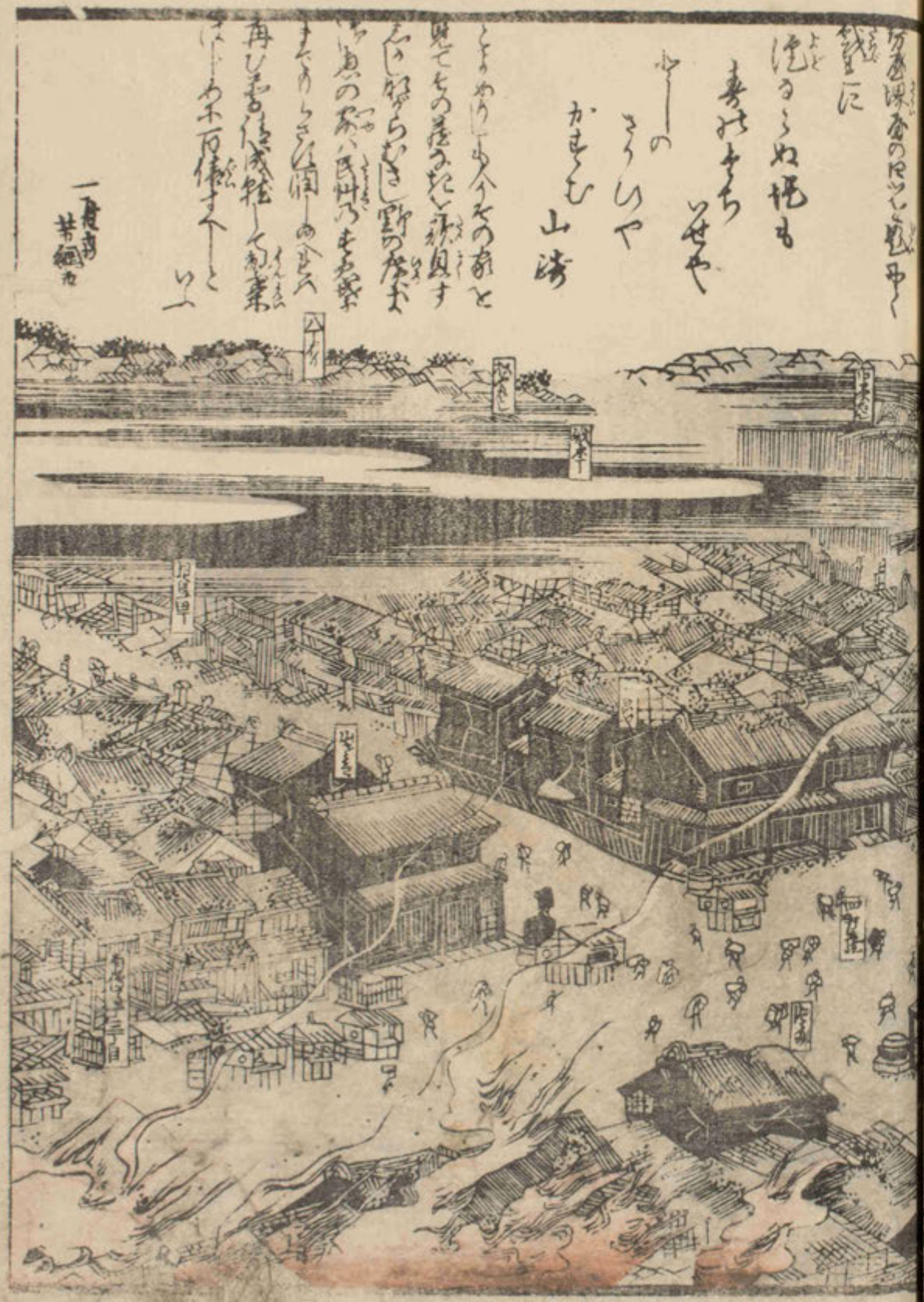
△同年橋ヶ南方中橋ヶ表例破損　一勇齋國芳
ヶ一同本西方西河岸ヶ異版丁數表ヶ丁
檜物丁上橋丁南橋丁桶丁迎破損
同東方同年本町丁小町丁
筋違丁練塀丁新吉場堀ヶ丁
大橋丁松川丁本町丁六丁目上の中家[illegible]大破損當家
潰家多一作一家の内殺人

一白米五升　[illegible]
一銭弐百文

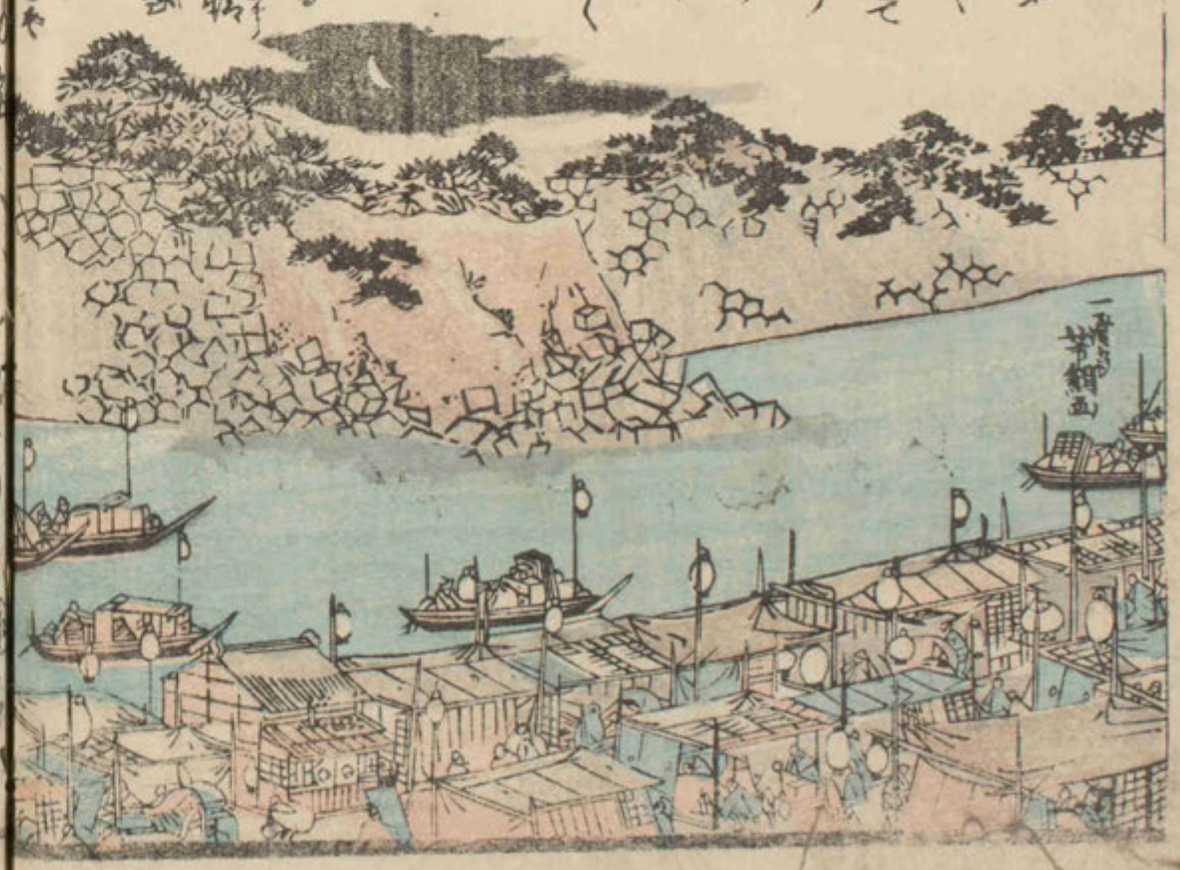
[illegible]

河村
鴻左衛

[illegible]
水菓子


ぬるるうれ悦も
山清

天地の変ゆるがれて、人情もまた変ずるものなり
況や大地震の後、再び大震ありなんかと懼れ大略
仮蓋とつくり、それに住居する由いろいろ
彼天智帝の殿製の如くかりなる庵の名あり
数度なり、遠雷疾風さながら狂ーなる
大空の雲と雷と常に八方の七方に一方も雨
かくけ雷と時人よろこび本宅の戸障子
壊れ傾きもせず二階家あるいは中二階物置
雑もく、それにふくく振る者一人も多く初めは
ひやくらいと恐れさうとも何ぞ有
法にはなりて雷出雲一本宅人法ちがー
ちょべーあるいはいて脚腰れて歩行
実に乱衰の極り初見人ぶるものなり
の事ふるいぬるもそ人物
つくられ所もなくなる迷ひあるべ



地震大震の後は大小と雖ども絶えず
作らるるもの甚有り通例ふ例ひて日の出日の没
とかく重数とす時ち地震日の没時に数と知べし
且地震の過ハ時は大きく動くべきを紙上の和見
しけるばかりに略す

十月二日 時四 過四 半九 片八 半八 片七 過七 同 半七 同
四日 半八 過七 半九 過半九 過八 五日 片六 半八 片七 過六 三日 片九 片七 過七 半七 片八 半九 片七 過七 十日 過六 過六
七日 片四 片七 過六 過五 過九 八日 半七 半九 過八 片七 過七 十二日 半八 十三日 過五 過四 十一日 片八 過四 半九
十四日 過四 半五 片七 十五日 過七 片七 十六日 片六 片八 過八 片九 十七日 十八日 過九 今夜雷雨 十九日 過六 片四 廿日 過八
廿一日 片六 片五 廿二日 半五 廿三日 無 廿四日 半五 廿五日 過七 廿六日 過七 過八 廿七日 過九 廿八日 片四 廿九日 晦日 片九

十月総計八十度 晝二十八度 夜五十二度 也以下畧之

一 銭弐百五十貫文　右内ノ

一 銭五百貫文　右同ノ

一 白米五千石　長崎ノ町人ニ貸ス

㊀ 南瀬海手指渡屋敷五軒長濱ノ内絆屋ノ下ノ大根河岸表蔵ノ北面屋敷

異国ノ丁裏ノ丁間横丁柳ノ丁柳ノ下八丁目河岸ノ辺ノ焼ル者ノ町ノ義ノ方ノ所ノ辺

△海鐵橋坂本ノ丁数橋橋ノ中ノ北ノ方彼橋ノ元異橋ノ屋敷表側ノ西ノ大彼橋ノ

細川橋中ノ中ノ彼橋外田代地屋敷ノ裏ノ藏中橋ノ中ノ大彼橋河岸ノ表ノ方

西浜ノ松屋ノ丁ノ横新銀代地彼橋屋敷ノ辺八丁堀ノ西ノ丁目ノ彼橋河岸ノ

柳ノ西ノ石垣ノ彼橋今ノ丁ノ分見代屋ノ西ノ方彼橋屋敷家浜家ノ裏ノ長浜ノ丁八丁堀ノ辺ノ

屋敷彼橋屋敷ノ西ノ年十二月八日新水谷ノ丁ノ中方水谷ノ丁ノ中ノ丁ノ

橋ノ丁銭ノ丁ノ他中ノ地義橋屋ノ焼ノ辺ノ所ノ辺△同ノ中ノ屋敷ノ丁紫際屋敷

彼ノ地ノ社沈義例ノ屋敷ノ橋ノ丁大彼橋ノ丁ノ余浜ノ

手ノ同ノ河ノ屋敷ノ酒義大彼橋

一 柳ノ戸ノ間橋ハ万治ノ年初テ武係ノ曉ノ不ノ浜ノ中ノ長サ

九十六間橋ノ上ノ辺ノ樂屋ノ屋敷ノ紙ノ橋ノ樂屋ノ辺ノ屋敷

ノ北ノ武ノ作ノ辺ノ遠岡安政二ノ年十二月廿三日流ノ経ノ功ノ

長崎ノ相撲ノ起ノ所ノ辺ノ浜ノ初ノ修ノ金ノ辺ノ実ノ中ノ同ノ辺

なりしやうにぞうん

ゆうしのの長八ノ屋敷ノ

寄ノ人　小西ノ右衛門　同人妻　年八歳

同人伜　熊三郎　同人妻　年子歳

同人娘　ノ　同人妻　年歳

寄ノ人　石橋ノ右衛門

一 清武ノ五百貫文　五十人扶ノ人

△雲岸寺ノ門ノ下ノ長屋ノ丁ノ西浜ノ丁ノ大彼橋ノ東浜ノ丁銭ノ橋ノ大彼橋

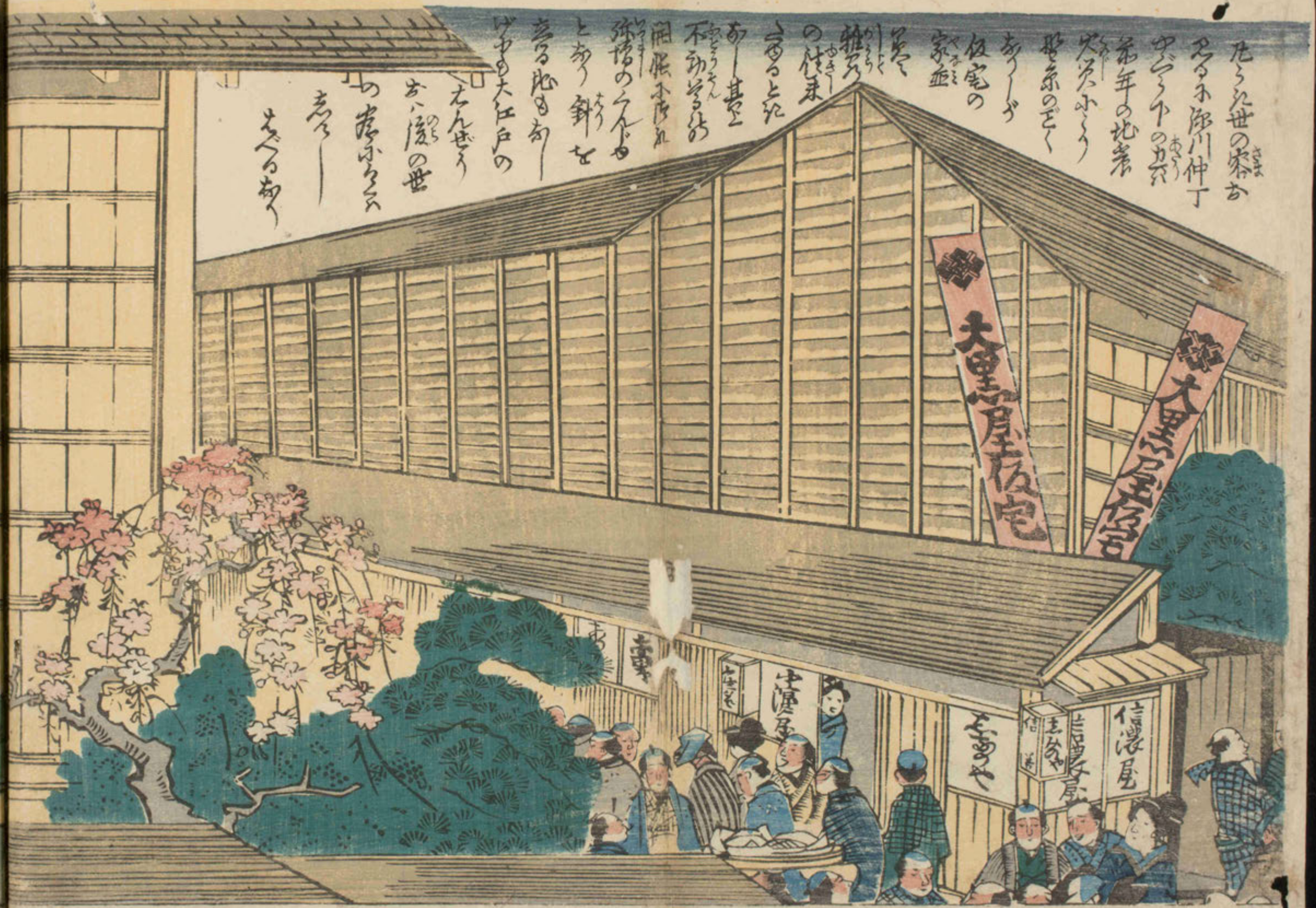
同ノ所ノ銭ノ場ノ清武ノ屋敷

一金壱朱ト銭壱貫弐百文　　長華屋　尾屋長兵衛
一金壱分ト　　日百姓　藤　兵衛
(二)日新南新門二十日中稲方日二丁目通丁武丁大門堀丁まで焼る
△同中方中新堀第橋丁久世橋中中元伊豆橋七丹橋中中元大破橋
田安橋破橋ハ堀ハ湯屋横日西町家無く焼
一銭壱貫弐百文　　寺町　沖坂氏
一金　壱朱ト　　小新堀　長橋屋
一同　　日西　小村氏
一銭　　日西　後藤氏
一金　壱拾一匁　　日西　冨久助
(三)永代橋東方ハ長崎屋日新方相川丁東
戸隠丁新方相川丁西側方焼る仲一橋東忘作変丁去日橋中や
高橋地蔵ヶ丁方鍋升丁二丁目西重焼通り丁二丁拾丁三丁目西
西金焼仲丁西ノ者長堀義ノ永代ヨリ西ノ丁ノ丁山本丁西橋丁永代
ち東ノ方二丁焼八幡社ノ方ノ者止る
△富賀屋八幡社ノ方ノ者長堀義ノ永代ヨリ西ノ丁ノ丁山本丁西橋丁永代
地蔵ヶ丁ノ西ノ方ノ者止る
一銭七百五拾貫文　　仁兵衛
一銭六拾貫文　　日西　家屋和助
一金五百七拾五匁　　日西　人
一金壱分ト　　日西　人
以上
一金弐百拾五匁弐分　　日西作変丁　五郎兵
一金弐百三拾五匁　　日西作変丁　治九郎

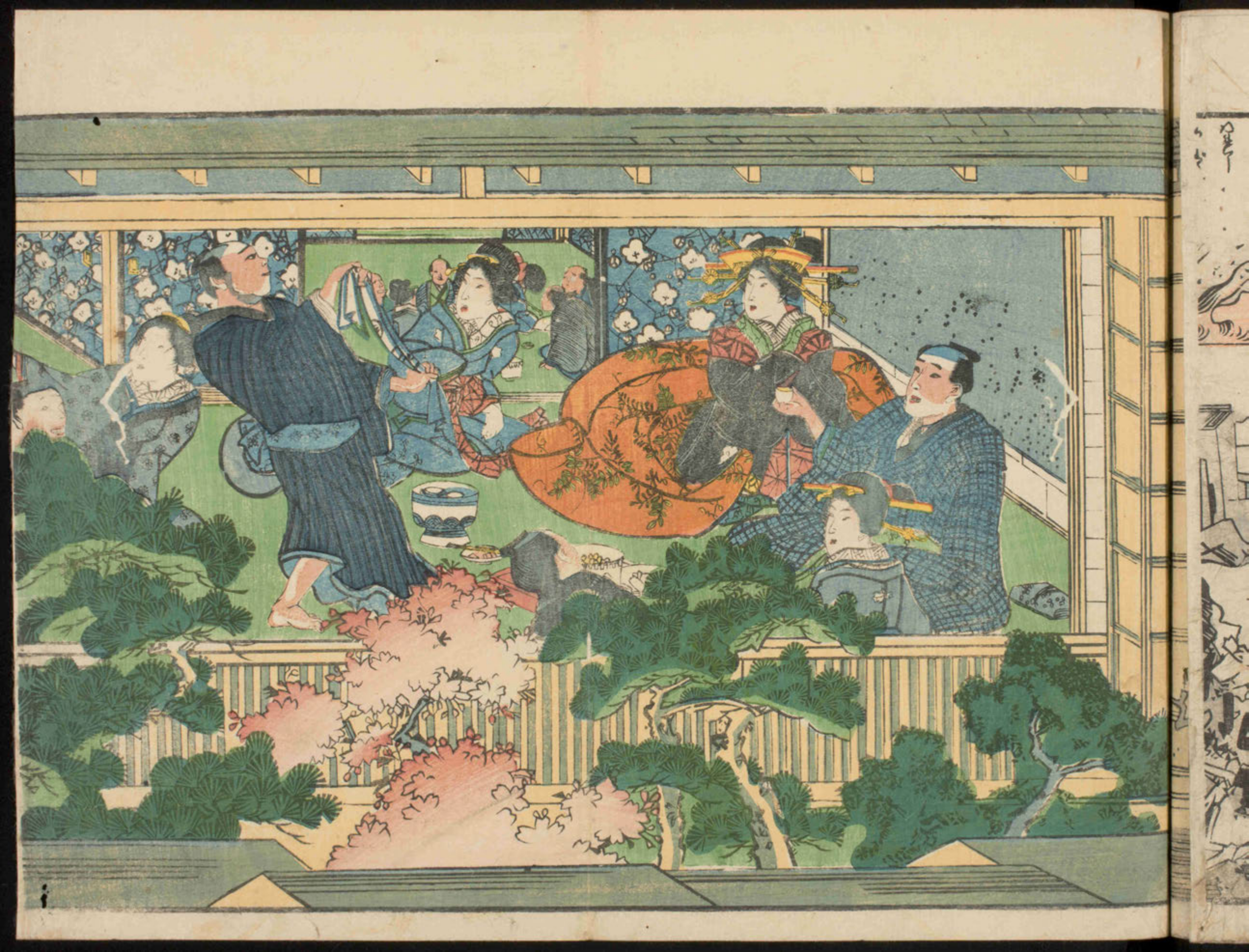
一金百四拾壱両三分　内
一同百四拾弐両　分
一同百七拾四両弐分　内訳
一同弐拾四両弐分　内訳
一同九拾四両　分　内
一同三拾五両弐分　内
一同三拾四両　内
一同三拾壱両　内
一同三拾壱両三分　内
一同壱分ト壱朱　内
一同壱分ト弐百文　内
一同壱分　内

内　本橋　長谷川
内　佐久間町　長谷　助
内　小川町　長谷川
内　佐久間町　南三郎
内　本橋　江戸屋清兵衛
内　佐久間町　忠　助
内　久永町　天野屋
内　長谷川町　七右衛門
内　佐久間町　清兵衛
内　西　川村氏
内　長谷川町　東
内　佐久間町　乳熊

其一



たうえ世の家古
るる不忍川仲丁
ぜんぜんの五六
年の地者
火災ふくう
聖系のごく
あるいづ
仮宅の
家並
ずらて
雅な
の仕来
ゐるとえ
あり甚と
不動ゐる所の
洞穴不詳れ
弥陀のくんる
とあり鉢を
ゐる地も有
げ中も大江戸の
ちんぜう
古八屋の世
の岩ふくえ
ゐて
ちべる有



△日本橋南方路地横町中々之方田東西正横町中々松平小路ち横町中々之大名
屋敷火災之△日本橋之拾之間屋籍の内より出火新橋辺へ七ツ時頃火押
大破損△日本橋東堀の地所商家町家其外家ニ多く悪く記しがたし
㊃日本橋和泉町辺代地石原代地丁目日本橋辺方今所
永堀丁目万年丁目辺其辺之寺院深川富岡八幡辺方浄土院法禅院西福院
海福寺辺法林寺辺大破損此辺方家数町家此辺焼失
其外ゟ△海辺大工町辺小屋掛

一 銭百三拾貫文　日本橋 大工屋 和助
一 日々八百文ツヽ外ニ米二拾俵　下谷 ［illegible］
一 沢庵二拾樽 生姜一樽 蒜一樽 梅干一樽　下谷 石町 七郎兵衛
一 味噌 一樽　大工町 新三郎
右之外数十人之施主あり尚又数十人之施主町屋ニ有之記ス

△同十日町西澤久寺善勝寺門澤門前家數百側並ひろる橋中二ヶ所及ひろ
食澤長善外破板本堂鐘撞堂善長△同西長蓮寺善勝及橋中悪流れ
善外大破板同所万蔵寺善勝ち長善ち長光ち宮雲ち本大破板宿々内法
ち院鐘鐘楼善悪倒並ひろる家一軒家々

(五)同所伊勢崎丁壹丁目二丁目焼る

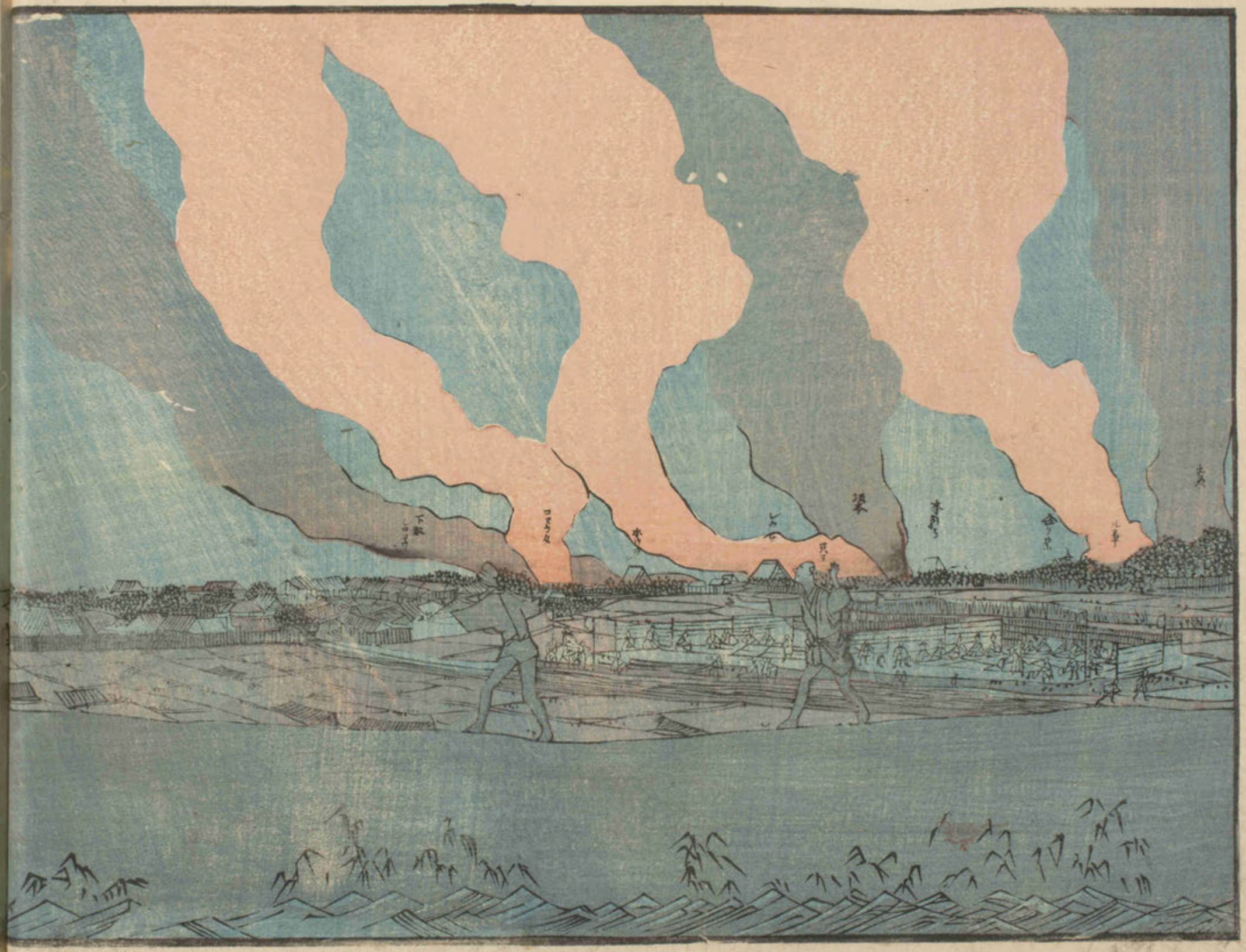
△同東万例場弁天社善長源内源房善外家屋破板△西方坪細川板
下屋敷小笠原板下中ノ丸お稲荷板中屋ノ丸塩山板中中丸
出羽板中中き同中万石源丁二橋板下ノ丸お善家数大久保
住吉板中中ノ丸紀伊板下屋敷戸田閑情板下ノ丸武田方小屋敷武
家若大破板屋敷多ノ同所八幡宮前家数多く焼る同所村長る
大塚遊野元八幡小名原川筋ちまぐの内焼且家々△同東方一ノ丸
対八十六軒焼る家小屋ノ家ノ

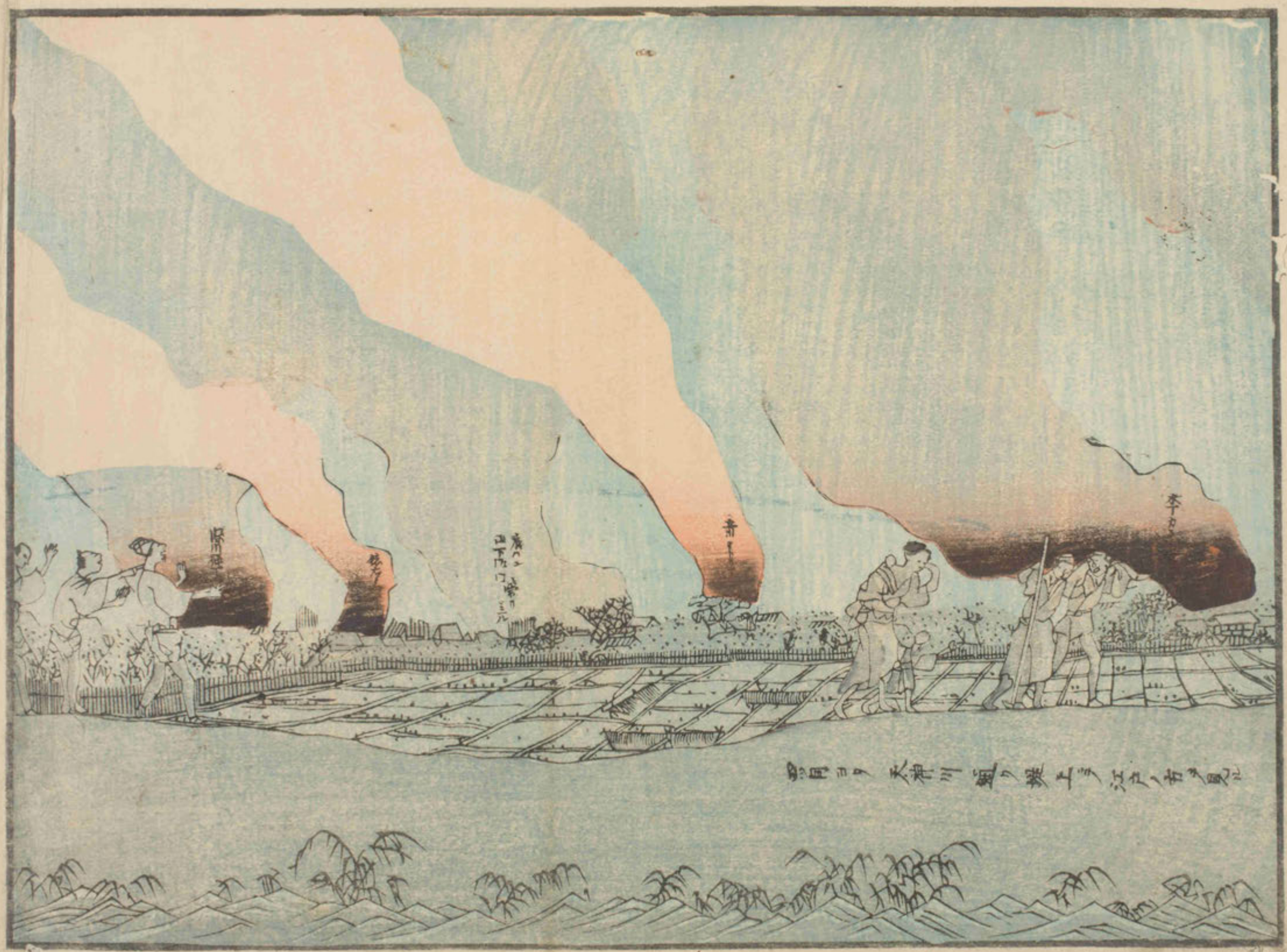
△伊勢候の家中ある人ち動ろて幸所辺の屋敷ふ焼ち残るふ十月二日
の夜八ツ時ちのあって重役長善ふ乐田今彩井の水濁り汐ちれ
大地震の兆あり彩色ち長の表ち長ハ軽ふ
がゝ ロ用心ちとらふ重役長善ふ潮矢く彼方の西長屋 ちゆ
見ち文ち文ちかゝ橋又ロ役ち舟へ大地震のあんち長善ふ
伊奈ちの長あゝ見ち長ちくち教ち長ち夜悪ノ大地震ち重役
の之船ハ拾遺ノおち船中ち明矢ち人和ち長ち幸あ
逃ちれち者大勢あゝ一物ち残ち所ち ノ 鳴神光ち

亀井戸住玉蔵寺今年の悪疫を逃ち同所天神門の慌ちの
方ち天ち不四方ち近ち天新ち家金光寺の前ち者の再ち長ち
ち長ち長ち伝人ち長ち加ち長ち伝写真ち ち長ち出ち

△寛永年間藤原某の人花園と名ける十月二日の夜だしきりるるりのみて雷と雨〜〜ん
河面平と出きるる事切不能撥一つも得ぞ唯鯰三尾とかぞ情ふかう鯰の落
かへ所地震あるといふ不思議と止帰家にして妻と子並と妻家蔵迄異と出〜〜
天変の怪とかぞう甚しき不審家子奴子甚夜右地震人住居に恐怖を
けさ無為番物に更に物ぜを情示日夜近きの人共多虎の鯰の落るとそれからら
弾ぞとせども改撥ある少きと家居ようを家賦ら眞と計りなく揺出〜〜陸く海〜ろ
右藤信氏に其ぞと〜〜一つの鯰を拾るるの是全世統作絵とい其鯰和村ろか
一番の陸平〜て油ひせ〜ん我ぞと平ぬ殺せ〜〜人のろう長笑ふ自然の通れ
地不変動ぬ〜ん時ら且鯰の勇ろのまこん世間ようう地震を鯰と云ふ虎ろう
ふ也〜ん 何ぞ番の仮説と云て後世の人を〜ろるるこんと云ふ

△寛政中の比毎天小法ぬ八百屋新助といふ者のあり大地震ふて家十余戸潰れ
[illegible]
[illegible]と新助出〜ける無無と安心[illegible]自由ぬ〜を狂ふらさくありて
[illegible]と新助殺んとする者日平新屋ようを出人ぬて決分不決撃ぬ〜く笑八の
おのて[illegible]云ふ妻と殺んとて時ろるるとび市内と結三人の子と危〜妻借
ふり亦其夫とを〜て逃んの最ぬ者〜とい不新夫ぬ殺夫ぬ同其不
示て云ふ天災ぬ〜〜犯業の犯をさせんと新殺〜三人のふい殺ふ〜妻育とを〜を
必ぬ不変べ〜〜ぞ是ろ割下水牧番氏を憑べ〜〜九仏者とて成仏せと無除て立近
多其夜子下刺牧ぞふ力へ尊ものあり牧ぬ殺ぬ〜〜殺新所ようを〜〜人ぬて
焼潰ふ客ぬ実不幽霊人成べ〜〜新ぬ妻他と同不妻ぬ云ふ実ぬ服〜〜殺新て
のまを焼〜ぬ人押付ふ平其怪〜〜御実中を流ふと落ふ其怪ぬ家今〜〜
ふの中〜て最老ふ〜〜凡今度の殺ぬ仏不無 流ふる人ぬ井中不殺ぬ人
なるものぬ亦絵〜〜弦流ぬ〜〜ふと雖物殺ぬ仏世不其一三ふ殺の





△深川富吉橋の二の組番人足吉兵衛と云ものあり右地震にて其家倒れ其下敷
死中一ヶ所の伴の怪我もあり一ヶ所の隣の物音すさまじく出て見る
小笠原左京亮殿の玄関と思し一間中程潰れ其中に婦人切死
大木板屋番と刑部侍女九人と死中一人残る其外の中より女十二人と中ノ
明月院及城主の世話人と死人とともに外に出て見る浅草の中へ潰人
中侍女の傳せる玄関の安堂一ヶ所せ長ろ番号千の三ヶ所の史と間の十二人死中を
伴一式中の人所死之式所を逃よう逃馬刻苦一ヶ出羽ヶ丸ヶ
敵を之由此後ヶ月十日也と聞
十の人扶持を伴事方所の役伴付ヶ長ろ役の長崎八一流の雑隊中て
刺客の者中ヶ所式所又伴番人所
年ヶ月ヶ三ヶ所ろ史記ていろ
ヶ人間の宿所に住長人の中ふ

△廟橋所の伊賀橋下中に秋元橋中に張橋橋下中に秋丹橋中中に
橋下橋中に式橋の西橋下中に式橋の橋下に
△之橋を伊勢橋中に秋田橋中に秋田橋橋下に大橋橋
橋ざる所ヶ一月所数橋橋ヶ
△月中方方橋を之橋を橋ヶ一月中所一ヶ月橋石垣橋
橋後一ヶ所△月所橋式社之橋を所橋橋
(六) 新大橋東方中橋橋ヶ月所ヶ月所ヶ中橋ヶ八橋橋所ヶ月橋
丁橋橋中ヶ月所南方橋橋ヶ月所橋ヶ丁二丁八橋ヶ丁三丁
月所ヶ橋橋ヶ橋一ヶ所橋橋ヶ橋ヶ橋橋ヶ橋橋橋
(七) 月所ヶ向東方ヶ橋ヶ丁ヶ丁ヶ焼月所橋ヶ月所ヶ橋ヶ丁
六町橋一ヶ橋ヶ月東ヶ丁ヶ橋ヶ月所ヶ橋ヶ月所ヶ橋ヶ月所
井ヶ橋ヶ月橋ヶ中ヶ橋ヶ橋ヶ橋ヶ橋ヶ橋ヶ橋ヶ橋ヶ橋ヶ

八月十五日浅草門前丁焼る此所武家町家共大破大小数所焼失あり

九月中方猪子町二丁焼る此所武家町家共大破数多

△本所南四角流本所小名木川辺蔵屋敷焼て長崎屋清兵衛抱武家町家共大破数多

十月南方相生町四丁目より天丁目緑町一丁目二丁目共焼る同所浜町

石垣崩同中方津軽様中屋敷の門小屋共大破抱数多同南方松平

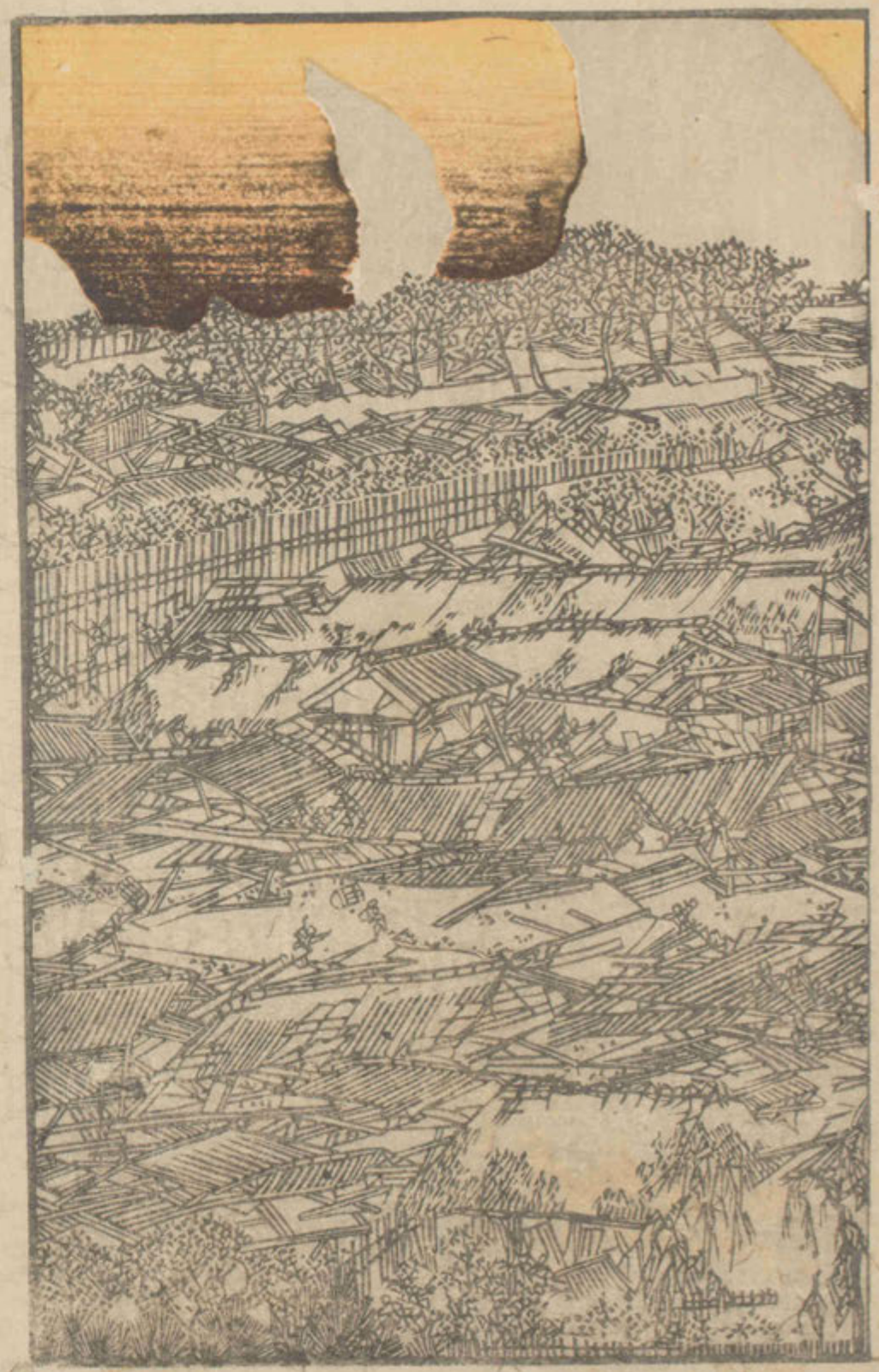
能登様抱下中屋敷永倉丁入口長崎丁之武家町家共大破抱数多

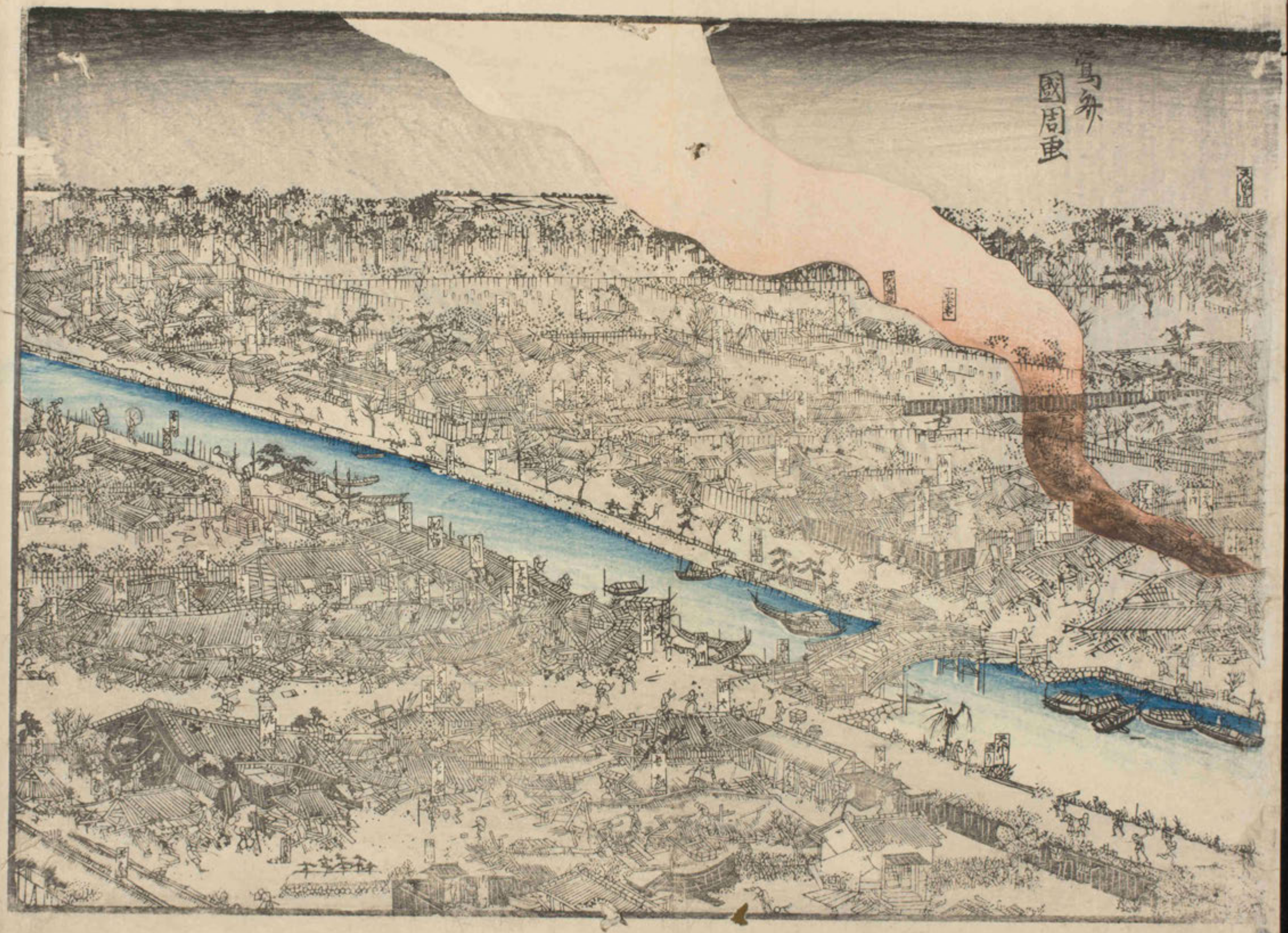
十一月南方緑町一丁目弐丁目焼る三丁目残り四丁目及丁目花町共焼る同

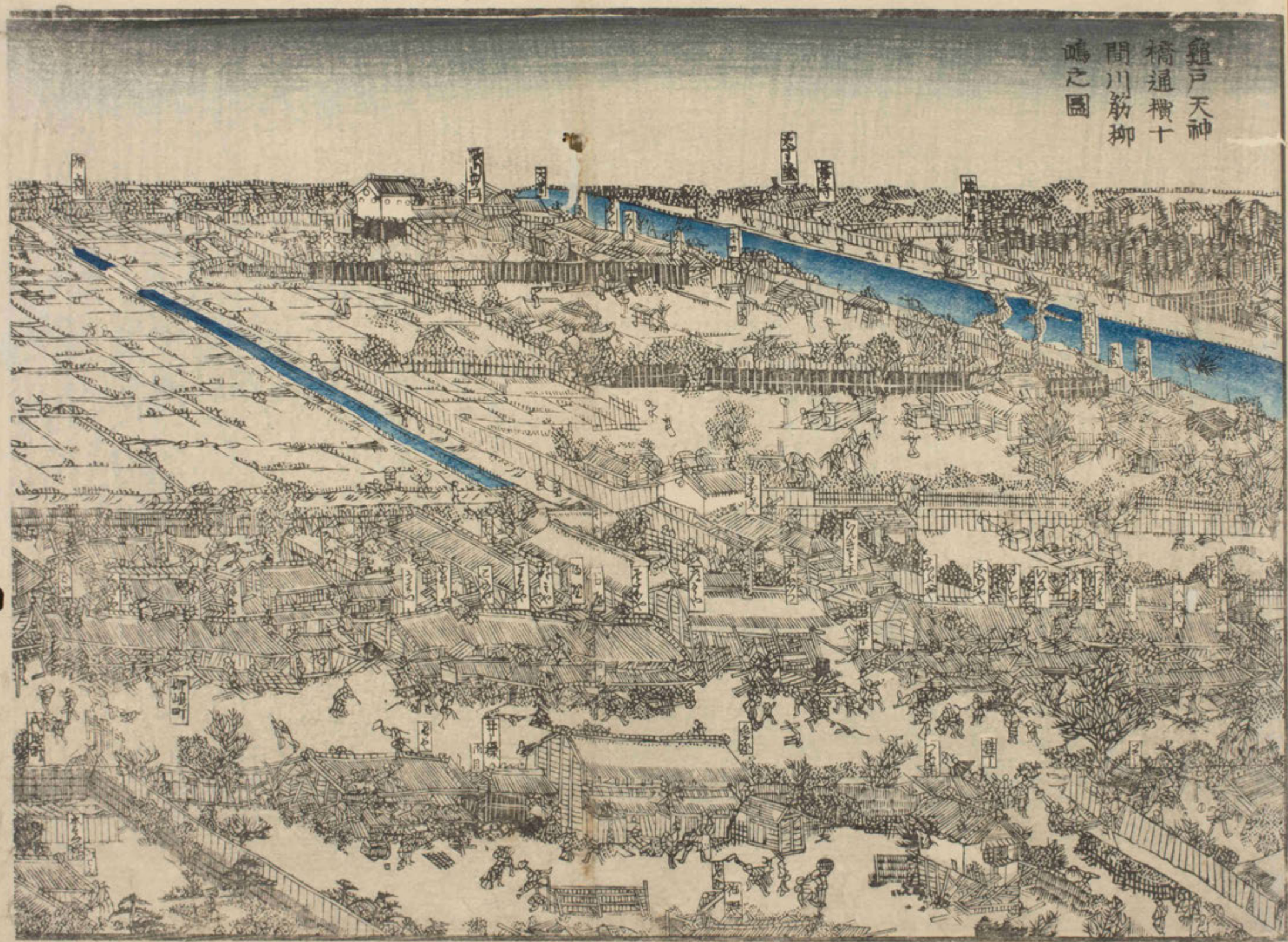
中方松平能登様抱下中屋敷梅村常力様中方武家町家大破抱数多

十二月小本所石原牛島新田旅所共大破抱数多

抱数多数〻不悉紀〻




鳥羽
國周画


鎧戸天神
橋通横十
間川筋柳
嶋之圖

十三 同中之丁石系丁武丁巳ける南割十ヵ辺ヵ西ヶ武家小中紀州屋敷ヶ所
焼ヵの破板七箇所有るもの三ヶ所ヵ

十四 同中方石系町荒井丁二丁焼る

十五 同中方小割十ヵ所丁三丁焼る同西松平周防板中中紀藩ヵ板十中紀
細川能登板中中紀藩神田小倉屋敷ける今日東方柳橋ヵ足袋屋ヶ矢ヶ八渡屋
ヶ屋敷士橋屋ヶ長ヶ四方の小中紀民家洗屋家基多〳〵小松村屋敷ヶ
組御ヶ屋敷 橋内大破板

十六 東南方本ヵ又ヶ同渡〳〵場海又橋丁字余ける屋敷の外破板焼失
同ヶ之同西ヶ屋石垣ハ大川ヶ出ヶ西ヶ多く門橋ヶ屋敷ヶ中へ落ヶ
義孔ヶ人ヶ

十七 浅草天神社ヶ橋内大破板同西門ヶ丁一丁焼る又同西角ヶ船番所ヶ
出火ヶ屋ヶ小火ヶ西ヶ西ヶ町ヶ紀文ヶ迎ヶ中紀民家屋敷家多く焼失同松平

多〳〵△長屋表本町通五百軒溝手筋以上辺迄家数凡五百軒焼死

(十八) 同西方浅草ちつぼ出村丁手筋表側を焼る△三間続秀白鷺社内東西ち

橋長堀向角一条△同隅田川西方千住宿大橋向之方八畳之南方長部続やち

大破橋中程不残焼落家あり

(十九) 小塚原丁表側焼ち氏地最樫焼く去新木橋ち至る〳〵同南方中村丁大破

橋洗家多く焼失同あん同南方山谷洲原丁二丁目南方元吉丁ち新ち続て

巳丁目東端ち表慶寺及橋ち同表側表伝ち稲荷殿ち東林ち巳ち表ち光源院ち

源院ち同二丁目ち同三丁目大長ち表向ち同西東側源寺ち隅田家ち表慶ち

通院ち手洗焼の地蔵までの中法宗ち院寺堂伽藍鐘楼一切破損の家

悉く焼〳〵御〳〵

天台 東叡山寛永寺
浅草雲龍山大慈院
浄土 本所 回向院
真言 芝高輪 泉岳寺 西南院
同 麻布白銀長者町 同所人形坂番 象満院
新義真言 浅草御蔵前 大護院
浄家 品川 東海寺
曹洞 赤坂 青松寺
真宗 本願寺 羅漢寺
法華宗 下谷 宗延寺
同 傍宗 浅草 慶印寺
西本願寺末 浅草地蔵番 長楽寺
東本願寺末 浅草脇番 金蔵寺
時宗 浅草 日蓮寺隠代 洞雲院
諸行無常
是生滅法
生滅滅已
寂滅為楽

安政見聞錄

上

129
6
3